

## 関中央ロータリークラブ

国際ロータリー第2630地区 東海北陸道グループ



2025～2026年度 関中央ロータリークラブ 会長テーマ

「自利利他 自らを研鑽し

社会に貢献するロータリー」

例会日：毎週木曜日 18時30分

例会場：関観光ホテル 岐阜県関市池尻 91-2

会長：吉田 和也

副会長：高井 良祐

幹事：森 敬

会報：古田 育則

事務局：岐阜県関市下有知 1655-1 山田ビル 1-D

TEL <0575>24-7332 FAX<0575>23-5278

前例会の記録 第 2202 回

2026年 2月5日

卓話「公共イメージ委員会について」

場所 関観光ホテル

担当 クラブ会報・雑誌・広報

本日のプログラム 第 2203 回例会 2026年2月12日

「関商工高校・台湾景文高校との交流事業」の報告会 担当：国際奉仕

ロータリーソング「我等の生業」斉唱・・・⑨

\*会長あいさつ 吉田和也 会長



本日のお客様は、関商工高校教諭 小門良彰先生、後藤有紀先生 台湾交流事業に参加いただいた生徒 7名 保護者の方 2名です。みなさま、台湾での交流はいかがでしたでしょうか？

この事業は、関中央ロータリークラブが青少年育成、国際交流のために特に力を注いでいる事業でございます。

本交流事業は、コロナウイルス感染症の影響により開催できない時期もございましたが、2013年に南隆ロータリークラブとの姉妹クラブを締結して以来、継続して実施してまいりました。お互いの学生が、それぞれの国の文化や学校生活を学び合い、非常に有意義な経験を積んでこられたものと確信しております。

現在、世の中は人・モノ・情報・資本が国境を越えて行き交う、グローバルな社会となっております。

この度、関商工の生徒の皆さまには、ホストファミリー、景文高校の皆さま、南隆ロータリークラブの皆さまに大変お世話になり、台湾の文化や景文高校での学校生活を体験していただき、楽しみながら学び過ぎられたこの貴重な時間が、将来社会に出てさまざまな分野で活躍

される際の大きな財産となれば幸いです。

今日は、今回の交流事業で感じたことをみなさまに発表させていただきます。みなさまが、どんな感想を持たれたのか、とても楽しみで興味深いです。なるべくたくさんの時間を発表に使っていただきたいので、会長挨拶も早々にさせていただきたいと思います。

最後に、6月9日～11日に景文高校、南隆ロータリークラブが来日され、関商工に日本文化、学校生活を体験に来られます。今度は、景文高校の生徒のみなさまに、日本での貴重な体験をしていただくように、私ども関中央ロータリークラブと一緒に、精一杯のおもてなしをさせていただきたいと思いますのでどうか宜しく申し上げます。

#### \*本日のプログラム

「関商工高校・台湾景文高校との交流事業」の報告会  
関商工高等学校商業科教諭 小門 良彰先生



本日は、このような機会を頂きありがとうございます。関商工を代表いたしまして、今回の台湾事業についてご報告させていただきます。この度の研修に関しては、関中央ロータリークラブの皆さまより偉大なるご支援を賜りました。心より御礼申し上げます。ありがとうございます。皆様のお力添えがあったからこそ、生徒たちは安心して研修に臨むことが出来ました。残念ながら、本日2名体調不良で欠席ですが、残りの8名の生徒が自分なりの言葉で話をしますので、写真とともに紹介させていただきます。

私自身は、英語教員としてまだ4年目で、海外への研修というものは、初めて引率させていただきました。まず台湾について最初のホテルでの歓迎会で本当に大歓迎していただき、そこでカラオケ大会も始まって、生徒たちが、ドラえもんを歌い始めた時は、この先大丈夫なのかと思いましたが、やはりそこは言葉を超えた音楽ですとか、カルチャーっていう形での心の通い合わせでスタートできたことは、本当に安心して見届けることが出来たなど思っております。今、グローバル人材を育てると言われて何年も経ち、AI が世界を再建しはじめて数年が経ち、

言葉の壁を越えていこうなという中で、やっぱり人と人との付き合いが一番大事になってくるかなと僕は思っています。

生徒の皆さんもおそらく台湾って聞いたら、もうホストファミリーの人としか思い浮かばないと思いますし、逆に台湾の方達も日本人って聞いたらあの人たちのことだなんて思ってもらえていると思います。今回研修に参加した君たちは、日本代表として生活して、これがグローバルを体験するという事を思ってください。インターネットでいくら調べても、YouTube でどれだけ見ても生の体験に勝ることはないの、とても貴重な体験をできたなと感じています。

#### 商業科総合ビジネス科 1年 石原彩名さん



私は台湾での3泊4日間の研修旅行で多くのことを学びました。1日目は、台北市内の九份を観光しました。有名なお茶の

お店に訪れたり、色んな食べ物を食べたりしました。また、九份では日本語が喋れる方も多く、沢山話しかけられたり、歓迎してくれました。その後、歓迎会が行われ、現地の方々と交流しました。夜はホストファミリーの家にいき、家の中を案内してもらいました。日本とそこまで変わったところはありませんでした。私の家と比べて、家族の空間とプライベートの空間がしっかり別れているように感じました。



2日目は、スーパーマーケットや市内を見学しました。また、日本との生活の違いとして、台湾では朝食を家で作らず、外で買って食べる人が多いということをバディの子に教えてもらいました。料理の授業では、台湾の有名なお菓子であるパイナップルケーキを実際に作り、景文高校の生徒の方とも交流できる良い経験になりました。昼食後はペンタブでイラストを描く授業と英語の授業を受けました。さらに、台湾の高校では昼食後にお昼寝の時間があるということ知り、とても驚きました。夕方には西門町で買い物をし、お土産を選んだり、台湾

の有名なスイーツである豆花を食べたりしました。3 日目は、指南宮へと向かい、神様にお祈りをしました。台湾では、日本で言う絵馬の代わりに、金属の板に願いを書いて木に吊るすそうです。また、猫空ロープウェイに乗り、お茶ソフトクリームやマンゴーかき氷を食べました。ロープウェイから見た景色はとても美しく、特に印象に残っています。その後、台湾の伝統的な技法でトートバッグに模様を描く体験をしました。その後は、景文高校の生徒とバレーボールをして交流を深め、夜はホストファミリーと一緒に夕食を食べに行きました。小籠包がとても美味しかったです。4 日目は、ホストファミリーとお別れをし、市内観光をしました。忠烈祠では護衛兵の交代式を見学し、その迫力に驚きました。また、戦争につ



いて記された壁画もあり、台湾の歴史について知ることができました。私はこの研修を通して、日本と台湾の文化や学校生活の違いを知り、視野を広げることができたと思います。また、今回できた台湾との縁を大切にしていきたいです。

#### 商業科総合ビジネス科 2年 高井麻衣芽さん



私は今回の台湾研修を通して日本とは違う沢山の文化を知り、学ぶことができました。日本では当たり前だと思っていた事が、国が違えば当たり前では無いということ強く感じました。例えば蛇口から出る水道水です。手洗いやシャワーなど生活用水としては問題なく利用できます。しかし配水管が古いといった理由から、そのまま飲料として利用することは勧められていません。したがって現地の人は水道水を 1 度沸騰させたりペットボトルの水を飲んだりしています。このことから日本のように蛇口から出る水を当たり前のように飲めることは世界的に見ても珍しいということが分かりました。もう 1 点驚くことがありました。それは台湾では日本が人気だということです。日本の商品やキャラクターなど、日本で見かけたことのあるものがたくさんありました。それに加え、

日本語を学習している学生も多く見られました。私のバディも日本語が上手で自分でも難しいと感じるようなテキストで日本語を学習していました。おかげで日本語での会話がスムーズにでき、意思疎通に困ることなく安心して研修を終えることができました。このことから台湾では日本の文化が親しまれていると同時に、日本人と台湾人は言葉が通じるため、相手との距離が一気に縮まると感じました。もちろん日本語が全く分からない景文高校の学生でも英語やジェスチャーで自分の思いを伝えることができました。それでも言葉の壁が大きいと感じる研修でした。



「まとめ」今回の研修で日本の当たり前は海外では通用しないということ、語学学習の大切さを改めて知ることができました。今は翻訳アプリなどが発達していて外国語がわからなくても問題なく会話ができる時代です。しかし機械を頼るだけでは伝わらない気持ちもあり、相手と向き合いながら伝えようとすることで、より深いコミュニケーションが生まれると実感した 4 日間でした。この研修から語学学習を積極的に取り組んでいきたいと考えます。

#### 工業科建設工学科2年 山田典吾さん



僕は今回の台湾研修で、実際に台湾を訪れ、現地の文化や生活を体験することで日本との違いを学びたいと思い参加しました。今回の研修で台湾の文化や学校生活の違いを体験して日本との違いを知ることができました。研修中は、九份観光をしたり、さまざまな体験をしました。景文高校では、料理の授業でパイナップルケーキ作りを体験し、台湾の代表的なお菓子について学びました。また、CG の授業ではパ

ソコンを使って絵を描いて日本とは違う授業の雰囲気を感じることができた。英語の



授業では、台湾と日本に関するクイズを行い、楽しみながら英語を使うことができました。そのほかにも、工作の授業でハンドクリームやトートバッグを作ったり、体育の授業で景文高校の生徒と一緒にバレーボールをしたり、交流を深める機会が多くありました。制服や校則が自由で、お昼寝の時間があるのは、日本の学校とはとても違って新鮮に感じて、勉強と休憩のメリハリがしっかりしているところは、日本の学校にも取り入れてほしいと思いました。また、台湾では日本と比べて交通や街の様子に大きな違いがあり、日本では自転車で通学する生徒が多いけれど台湾では自転車通学は少なく、バスを利用して通学する人が多かった。バスの料金も日本より安く、気軽に利用できる交通手段でとても便利だと思いました。また、街には同じような見た目のマンションがいくつも建っていて、日本とは街並みの印象が違ってとても新鮮な光景でした。バイクの数も非常に多く、道路ではクラクションが頻繁に鳴っているのが印象的で

バイクの多さやクラクションの音には最初は驚いたけれど数日過ぎすうちにそれが台湾



の日常だと感じるようになりました。

〈まとめ〉今回の台湾研修を通して、初めて海外の学校の授業に参加したため、最初はとても緊張したけれど、現地の生徒やホストファミリーの人達が優しく声をかけてくれたおかげで、向こうでの生活を安心して暮らすことができました。また、言葉が完璧に通じなくても、一緒に活動することで仲良くなれると感ずることができました。中国語や英語がうまく話せなくても、ジェスチャーや簡単な単語を使えばコミュニケーションが取れることを学びました。また、日本では当たり前だと思っていた生活や学校の仕組みが、国によって大きく違うことを実感できてこの経験を今後の学校生活や将来に活かして、異文化への理解を深めていきたいです。

工業科機械科2年 野村廉太郎さん



今回の台湾研修で学べた事がたくさんありました。自分は、物心つく前に海外に行った事はありませんが、当然ながら海外は日本とどう違うのかなんて覚えて

いませんでした。行く前は同じアジア圏だし沖縄県みたいな感じだろうと考えていました。しかし実際に行ってみると想像していたよりも世界観が違って、道路の看板に日本語なんか書いてありませんでした。気候や自然などは沖縄県に似ているところもありましたが、海外の空気を吸っていると思うととてもワクワクして初日から楽しみながら研修を行うことができました。そして現地の高校生と交流やホームステイをさせてもらい、その中で文化や伝統、学校での過ごし方を日本と比べながら 4 日間過ごすことができました。その中でとても印象に残っている

のがあります。1 つ目は食文化です。台湾の料理は中華料理と一緒に思っていて、実際に見て



食べてみると今まで食べたことのないぐらい美味しく、中華料理に似ているけどスパイスが効いていて、自分の中では今まで食べた他国の料理よりも遥かに美味しいと感じました。市場に行った時に臭豆腐という豆腐が売られていて、日本でいう納豆みたいな香りがする食べ物と聞き最初は口に近づけるので精一杯でしたが、実際に食べてみるとほんとに美味しく感動しました。これをきっかけにもっと色々な国の食べ物を食べ、食文化について知りたいと思いました。2 つ目は日本との生活の仕方の違いです。まず 1 番驚いたのがトイレで、トイ



レットペーパーが流せないことです。台湾に着いて空港のトイレに入った時は流せたのですが、バス

ガイドさんの説明の中で「流せない」と聞き「そんなバカな」と思いホームステイ先のトイレを使ってみると、ほんとにゴミ箱に捨てるタイプで驚きました。日本では流す

が当たり前だけど、そうでもない国もある事が分かりました。そして、現地の高校生と一緒に過ごしてみて、日本の学校との違いも



多く見受けられました。まず高校内にコンビニがあったり、授業中や教室内でスマホを触っていたりと自由で楽しそうに見えました!調理実習をさせて頂いた時にペアの現地高校生の子が親切にジェスチャーなどを使って説明をしてくれてすごく楽しくできて嬉しかったです。このレポートに書ききれないぐらい学べた事や感じた事、楽しかった事がたくさんありました。このような研修ができるのは先生方やロータリーの方々、そしていつもそばで支えてくれている保護者のおかげだとすごく思います。感謝の気持ちも忘れずに、行って終わりじゃなくて次に繋いでいけるようにしていきたいです。

#### 商業科総合ビジネス科1年 小野木歩夢さん



私は、この台湾研修で自分たちの国とは違う異国の文化を知ることで、日本との文化の違いを実際に肌で感じ、とても良い経験をすることができました。私が

特に印象に残っているのは、まずコミュニケーションです。私は、ホームステイ先の方たちと初めてお会いした時、もちろん日本語が通じるわけもなく緊張してなかなか英語で話しても上手く伝わらなかったり、話を聞き取ったりということが全然できずにいました。しかし、相手の方々は身振り手振りを使いながら私に必死に伝えてくれました。そこから自分も頑張らないといけないと感じ、自分が知っている限りの単語や熟語などや身振り手振りなどを使って会話をしました。そうすると、相手の方々にも徐々に伝わるようになり、自分のコミュニケーション能力の向上に繋が



り、自信もつきました。2つ目に、景文高校での授業です。景文高校での授業は自分達が普段受けているようなものは全く違い先生と生徒がたく

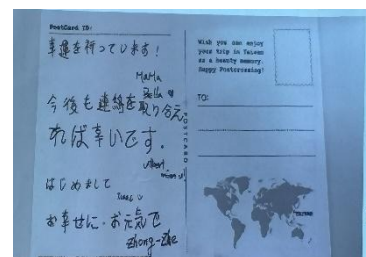
さんコミュニケーションをとりながら仲が良さそうに授業をしていました。また、はじめましての自分達も快く受け入れ、たくさん話しかけてくれました。これにより、仲良くなり連絡先を交換したりと、新たな出会いにも繋がりました。今回の研修は、私が行きたいと言って快く費用を出してくれた両親、様々な人が関わり実現したことです。行って終わりにするのではなく、この台湾研修で肌で感じた経験を活かしてこれからの学校生活や人生に活かしていきたいと思います。

#### 商業科総合ビジネス科1年 後藤千穂さん



私は今回、この研修に参加したことで台湾の文化などをただ知るだけでなく、日本とはどう違うのかを実際に体験して学ぶことが出来ました。その中で2つ印象に残って

います。一つ目は、一人一人の英語能力の高さです。台湾では第二言語として英語を話す人が多く、実際に台湾の学校の英語の授業に参加してみると英会話力がとても優れていました。日本ではプリントを使用し、英文を読んだり文法の勉強が中心のためなのか、英語で会話をする機会があまりないと感じていました。しかし、台湾ではただ英文を読むだけでなく、ゲームを取り入れ自分の意見を積極的に話す機会が多くありました。私は、自分の意見を積極的に相手に伝えようとする姿勢が大切だと思いました。そのため、自分の学校でも授業のなかでゲームなどをしてコミュニケーションをとる機会があったらいいのと思いました。私がもう一つ驚いたのは食文化です。台湾は外食することが一般的で家庭では料理をあまり作らず屋台などに頼ることが多くありました。また、日本と比べると物価が安く手ごろな価格で提供されていました。実際に注文してみると手ごろな価格だけではなく、どこに行ってもサービスでおまけをくれることがありました。このように、台湾は物価が安だけでなく、おもてなしの心であふれていました。台湾の人々はとても温かく、親切な人が多いと思いました。



<まとめ> 今回の研修で私は、改めて積極的に会話をする姿勢が大切だと思いました。研修に行く前は、台湾有事の問題もあり不安でした。しかし、実際に多くの台湾の人々と交流をしていると良心的かつ友好的でした。言葉が通じない時でも、身振りや手振り簡単な、英単語を使って伝えた結果、バディや家族も理解してくれてうれしかったです。このように、あきらめず何度も挑戦することも大切だと思いました。また、この経験を生かして英語に限らず自信がなく、完璧でなくても失敗を恐れずに挑戦し、コミュニケーション能力をさらに高めたいと思いました。

商業科総合ビジネス科2年 長谷美琴都さん



私は、台湾研修を通して日本とは異なる生活習慣や文化、また言語が通じなくても人と人が繋がれることを実感しました。特に印象に残ったことは、台湾の生活文化の違いと、

言葉の壁を越えたコミュニケーションです。まず生活文化の違いについてです。台湾では、下水設備や環境への配慮のため、公共施設や飲食店の多くでトイレトペーパーを流さず、使用後は備え付けのゴミ箱に捨てるという決まりがありました。日本ではトイレトペーパーを流すことは当たり前だったため最初は戸惑いもあったけど、この経験を通して、その国の生活環境を理解して行動することができました。また、水道から出る水を直接飲むことができず、一度沸騰させてから飲む必要があることも、日本とは違い当たり前のように水道水を直接



飲めるのでとても恵まれている環境だと気がきました。さらに、ホストファミリーの家には湯船がなく、シャワーのみで生活していることも日本とは

違う点だと思いました。また、ご飯を食べる際には、円卓の中央が回転するテーブルが使われており、料理をみんなで分け合う文化が印象的でした。次に言葉が伝わらなくてもなんとか伝えようとしたことです。台湾では中

国語が使われており、日本語は通じにくいので英語を使う場面があったけど、その時にすぐに英語が出てこなくて英語を話すのはとても難しかったです。でも、ジェスチャーを使ったりしてなんとか伝えられるように頑張りました。しかし、私のバディは英語で話すより日本語で話す方が通じるくらい日本語がとても上手でした。日本がとても大好きで日本語の勉強を頑張っていると言っていました。私も英語が話せるようになりたいので、頑張らないといけないと思いました。台湾では日本が人気で日本の食べ物やお店がたくさんありました。台湾では日本が身近な存在であると知りました。今回の研修を通して、文化の違いを知ることの大切さや、言語が違ってても話ができるようになって自分知っている単語を掘り出したり、ジェスチャーを使って相手に伝えたりする工夫ができました。この経験を私は今後の将来や学校生活に生かしていきたいし、今の生活に感謝してこれからも過ごしていきたいと思いました。



工業科機械科2年 山田颯太さん



僕は、二年に一度しかない学校行事である台湾研修に参加した。研修では、台湾の文化や学校生活を実際に体験し、日本との違いを知ることができるとともに、多くの学びを得ることができた。研修中には、千と千尋の神隠しのモデルと言われている九份や、初代総統の功績を記念した建造物である中正記念堂などの多くの観光名所を訪れた。また、台湾の高校を訪問して、さまざまな授業を体験した。英語の授業では、台湾と日本に関するクイズを行い、台湾の生徒は発言が多く、とても積極的な雰囲気であると感じました。料理の授業では、台湾で有名な食べ物であるパイナップルケーキを台湾の生徒と一緒に作った。さらに、体育の授業では、景文高校の生徒と一緒にバレーボールを行い、試合をしたが完敗だった。また、校舎の構造や雰囲気が日本の学校と大きく異

なっていることに気づいた。台湾の学校は校舎の階数が多く、建物全体



がとても高いほか、土足で学校に入っていることが印象に残った。ホームステイを通して台湾の家庭での生活を体験した。食事の内容や生活のリズムが日本と異なっていたり、言葉が通じず最初は戸惑うこともあったが、簡単な英語やジェスチャーを使って伝えることができた。実際に生活してみて台湾の日常や文化を知ることができ、言葉だけではなく態度や行動も大切であることを学んだ。僕は、この台湾研修を終えて、一番に「とても楽しかった」、「また行きたい」と感じました。抽選で選ばれたときはうれしかったけれど、同時に不安もありました。その理由は、言葉が通じないことと、初めて海外に行くことの二つでした。そして、いろいろな準備をして迎えた当日、空港ではとても緊張しました。台湾に着き、歓迎会パーティーで景文高校の生徒に会い、ご飯を食べたりカラオケをしたりと、初めて会ったばかりでしたが、一緒に楽しむことができました。その後のホームステイ先では、とても緊張しながら一夜を過ごしました。次の日は景文高校へ行き、開会式で自分達のスピーチを行い、その後早速授業を受けました。放課後は、夜市や台湾の首都である台北市、台湾の若者の街である西門町に行き、買い物や観光をしました。次の日も授業を受け、前日と同様に放課後は観光に行きました。僕は台湾で一番高い建物である台北 101 へ行き、そこから見える夜景はとてもきれいでした。最終日は集合場所のホテルでお別れし、三日間という短い時間でしたが、とても楽しかったです。今回の台湾研修を通して、異なる文化や生活習慣を実際に体験することの大切さを学びました。言語が違っていても簡単な単語を使ったりジェスチャーをしたりと、自分から行動することが大切さに気づけました。この研修で学んだことを今後の学校生活でも生かしていきたいです。

工業科機械科2年 張李睿さん

今回、私は台湾を訪れ、観光だけでなく台湾の高校での見学交流という大変貴重な経験をすることができました。この旅を通して、台湾と日本の文化の違いを実際に体感し、多くの学びと気づきを得ることができました。まず、台湾での観光を通じて感じたことは、人々の温かさや活気ある街の雰囲気です。台湾の人々はとても親切で、困っているとすぐに声をかけてくれました。これは、日本の「相手に迷惑をかけないようにする」という控えめな文化とは少し異なり、台湾では人と人との距離が近く、積極的に助け合う文化が根付いていると感じました。また、夜市のにぎやかさや多様な食文化も印象的で、生活の中で「楽しむこと」を大切にしている点が日本との違いだと思いました。次に、台湾の高校での見学交流では、教育環境や生徒の学習姿勢の違いを学びました。



台湾の高校生は授業中に自分の意見を積極的に発表し、先生と生徒の距離が近いことが印象的でした。一方、日本では周囲との調和を重んじ、発言を控える場面も多いですが、台湾では自分の

考えをはっきり伝えることが重要視されていると感じました。この違いから、意見を持ち、それを表現する力の大切さを改めて実感しました。今回の交流を通して、私は異文化を理解することの重要性だけでなく、自分自身の考え方や価値観を見直す機会を得ました。異なる文化に触れることで、日本の良さにも気づき、同時に改善できる点も見えてきました。この経験は、私の将来に大きな影響を与えたいと思います。今後、国際的な場面においても、文化の違いを尊重し、柔軟な考え方で人と関わっていきたいです。また、台湾で学んだ積極的な姿勢を日本での学校生活や将来の進路に生かしていきたいと考えています。今回の台湾旅行と高校見学交流は、私にとって忘れられない大切な経験となりました。

商業科総合ビジネス科2年 船井穂乃未さん

・学んだこと

私は台湾研修を通して日本とのいろいろな文化の違いについて学びました。特に食文化と言語文化の二つについてはとても印象に残っています。食文化では日本は食べ始める前に「いただきます」、食べ終わった後には「ごちそうさまでした」といいます。しかし台湾には、このような食べる前後の掛け声的なものはありませんでした。また、台湾にはあり日本にはない食文化も多くありました。それは飲食店でのお持ち帰り制度です。日本のファミレスなどでは主となるメニューを一つ頼みそれを食べるのが一般的です。しかし台湾の飲食店では量があまり多くないものをたくさん頼みみんなでシェアしながら食べるのが一般的でした。なので、そういったときにでた余りの食材をお持ち帰りできる制度がありました。これはフードロスの観点からみても日本で取り入れるべき文化だと感じました。二つ目に言語文化です。日本と台湾はどちらも英語の授業があります。しかし日本と違うと感じたところは英語を話すことのできる人数にあると感じました。日本の英語教育では「話す」ことよりも「読み書き」に重点を置いていると感じます。しかし台湾の人々は大人になっても第二言語として英語を「話す」ことができる人が日本に比べて何倍もいました。町中に出て何か困ったときに英語で話しかけると多くの人が英語で返してくれたりしました。なので、そこが日本と違ってかなりすごいと感じました。

・まとめ

今回の研修で私は将来自分がしたいことが少しかだけ具体的にってきました。自分はいつか海外に長期的生活するためにいきたいと思っています。しかしどの国に行きたいのかなどの具体性はあまりありませんでした。しかし今回の台湾研修により英語圏である東南アジア方面の国に行きたいと思えました。そのためにも日々の英語の授業や授業で学べないネイティブなことを学んでいきたいと思っています。授業では学ばないネイティブな人たちが使う単語や熟語については、自分の担任の先生が海外経験のある人なのでそういう人脈や現代のSNSを活用して学んでいきたいと思いました。

関商工高等学校教諭 後藤有紀先生



教室では得られない貴重な体験を致しました。私も初めて海外研修の引率という事で、とてもソワソワしておりまして前の日はなかなか眠れず、初日からバス酔いをして、ロータリーの方や先生にご心配をおかけしましたが、あたたかい声をかけて下さり、私も前進できました。私自身も、英語教師として志しを決めた時には、海外での体験というところがとても大きな役割を占めていたのかなという事を、今日生徒の話を聞いて思い起こしました。私も海外で初めての経験というところで、とても大きな衝撃をうけた記憶があります。生徒にとっては、このような体験が、本当に人生が変わるような大事な貴重な体験をさせていただけたかなと思います。本当にありがとうございました。

\*出席委員会

会員数 26 名、本日の出席 15 名です。

\*ニコボックス委員会

16 ポイントのご投函ありがとうございました。

\*その他の委員会報告

マイロータリーの登録をまだしていない方は、登録をお願いします。

\*幹事報告

<次例会の案内>

第 2204 回 2 月 26 日 (木)  
卓話 「過疎化地域における道路狭小部の  
アセットマネジメント」

担当:出席委員